

腎臓リハ NEWS LETTER

<https://jsrr.smoozy.atlas.jp/ja/>

発行：一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会 筑波大事務局
〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1 筑波大学附属病院内
Fax: 029-896-7746 E-mail: kanri@jsrrtsukuba.com



日本腎臓リハビリテーション学会の皆様へ 理事長再任の御挨拶

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

理事長 山縣 邦弘

このたび、2023年3月18日開催の臨時理事会において理事長に再任いただきました。今後の2年間も何卒よろしくお願い致します。

日本腎臓リハビリテーション学会は、設立以来の12年で順調に発展してきました。特に近年の生活習慣病関連疾患の重症化による慢性腎臓病患者の増加、高齢者人口の増加により健康寿命の延伸がより大きな課題となってきたこと、このような背景のもと、腎疾患患者も安静よりも積極的な運動が、体力維持やQOL改善、健康寿命の延伸のみならず、腎予後、生命予後にも有利であることが明らかとなり、薬物療法のみではなく、生活習慣の改善や多職種との医療連携のもと、患者の精神サポートを含めた包括的リハビリテーションである腎臓リハビリテーションの重要性が多くの方々に理解、支持、注目され、ここ数年の本学会の発展に直結していることと思います。

このような中で、上月前理事長から引き継いだこの2年間につきましては、東北大学からの事務局移転とそのため様々な手続き、さらに昨年からの維持血液透析患者への腎臓リハビリテーション加算とその対応のための腎臓リハビリテーションガイドライン講習会の開催、和文学会誌である日本腎臓リハビリテーション学会誌の定期刊行と、多くの皆様に御世話になりながら何とか対応してまいりました。中でも日本腎臓リハビリテーション学会誌は未だテキスト等の少ない腎臓リハビリテーション学の理論的、実践的理解のための指標として極めて有用で好評を得ており、当初はオンラインだけの発刊を予定しておりましたが、当面の間は冊子体として会員の皆様の手元に送付させていただくことにしました。ご活用いただければと思います。

ここからの2年間は、事務局業務の効率化を図りながら、スムーズな事務局移行が可能となる体制の確立などの事務的な部分と同時に、年次大会以外の日程での学術・教育を目的とした定期集会の開催(WEB開催含む)や教育的動画の配信など、会員の皆様の教育目的の企画と同時に会員間での討論、切磋琢磨する場の提供が行われる機会を作っていきたいと思っております。また今後の腎臓リハビリテーション診療の新規保険収載ならびに腎臓リハビリテーション診療ガイドライン更新のためのエビデンス構築、臨床研究活性化に直結する腎臓リハビリテーションレジストリーの開始などの事業を通じ、安定的に本学会が発展するべく努めたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症蔓延のために、腎臓リハビリテーション指導士試験の延期、指導士の更新期間の延長などもありました。腎臓リハビリテーションガイドライン講習会受講者については、数年以内に腎臓リハビリテーション指導士にスムーズに移行していただけるよう、さらに魅力ある学会を皆様と築いていければと思います。

このような日本腎臓リハビリテーション学会の発展は、多くの皆様の積極的な活動のもとに成り立っております。学会参加とともに、多くの皆様からの様々なご意見を多くいただき、さらなる発展を目指したいと思います。WEB開催の最大の利点は、移動時間が不要で会合に多くの皆様に参加できることです。一方、多くの皆様と直接会って議論し、親交を深めることも学会参加の重要な使命です。

まさしく共創の場として本学会がますます発展できるよう、引き続きご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

学術委員会から:腎臓リハビリテーションの全国実態調査とこれから

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

学術委員会委員長 **成田 一衛**

調査研究ワーキンググループ **星野 純一**

わが国では世界に先駆けて「透析時運動指導等加算」が2022年度診療報酬改定で新設されたことは、御存知のことと思います。全国的に透析患者への腎臓リハビリテーションが注目されている中、透析時運動指導に関する質の高いエビデンスを発信する責務が本学会に課せられていると考えております。

日本腎臓リハビリテーション学会では、学術委員会活動の一環として、2022年12月に若手研究者を主体とした調査研究ワーキンググループ(WG)が発足しました。本WGでは、①新設された「透析時運動指導等加算」の実施状況、およびガイドライン利用に関する現状を把握し、②保存期CKDおよび透析期における腎臓リハビリテーションに関するレジストリを構築し、③わが国のエビデンスを発信するとともに、将来的な介入研究基盤に繋げていくことを目的として、50歳以下の多職種からなる14名の研究者にてその活動を開始いたしました。現在、およそ月1回のペースで全体ミーティングを実施するなど活発に活動を行っています。

本稿では、現在集計を進めている「透析時運動指導等加算」の途中経過について報告致します。2023年1月31日、日本透析医学会の協力のもと、日本透析医学会統計調査に参加している全国4,257施設を対象に、保存期CKDおよび透析患者に対する腎臓リハビリテーションの実施状況、保険算定状況、効果や有害事象などに関するアンケート調査を実施致しました。現在集計中のため速報値ではありますが、約38%の施設から回答があり、施設規模を問わず、回答施設

の32%(送付施設の12%)が「透析時運動指導等」を実施していました。また、2018年発行の腎臓リハビリテーションガイドラインが約85%の施設で活用されていました。一方で、指導を行っているすべての施設が保険算定を行っているわけではなく、「指導法がわからない」「算定要件を満たさない」などの意見も認められ、学会として更なる情報提供を行っていく必要性が示唆されました。

また、指導の中心は施設規模を問わず看護師であり、とくに理学療法士が常在することが少ない透析クリニックでは、臨床工学技士や看護助手も積極的に指導に関わっている実態が明らかになりました。今後は、本実態調査の結果をもとに、現場の状況に合わせた指導体制を構築していく必要があると考えられました。これらの実態調査の結果は2023年3月に大宮で開催された第13回日本腎臓リハビリテーション学会にて速報値が示され、6月の第68回日本透析医学会学術集会にて報告する予定となっています。また2024年新潟にて開催する第14回日本腎臓リハビリテーション学会でも主要な話題の一つになると考えております。

これらの実態調査結果をもとに、現在は保存期CKDおよび透析期のレジストリ構築が進んでいます。今後も学術委員会として腎臓リハビリテーションの学術的啓発およびエビデンスの構築に尽力して参りたいと思います。皆様の御意見と積極的な参加をお待ちしております。

●学術委員会

委員長 成田 一衛 副委員長 平木 幸治

委員 安藤 亮一 加藤 明彦 神田英一郎 斎藤 知栄 花房 規男 星野 純一

●調査研究ワーキンググループメンバー

星野 純一 白井 俊明 木田 圭亮 忽那 俊樹 河野 健一 小崎 恵生 小坂 志保

小林 静佳 祖父江 理 土田 陽平 西脇 宏樹 藤井 直彦 松沢 良太 谷澤 雅彦

第13回学術集会報告

第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 中元 秀友

埼玉医科大学総合診療内科 教授

2023年3月18日・19日の2日間、第13回学術集会は大宮ソニックシティ(さいたま市)にて開催いたしました。牧田 茂先生(埼玉医科大学国際医療センター心臓リハビリテーション科教授)、岡田浩一先生(埼玉医科大学腎臓内科教授)、長谷川 元先生(埼玉医科大学総合医療センター腎・高血圧内科教授)を副会長、小林威仁先生(埼玉医科大学総合診療内科准教授)を事務局長として開催準備をまいりました。

他の多くの学会同様、COVID-19の動向を注視しながら準備を進めておりましたが、幸いにもCOVID-19の規制緩和が見直されたことが追い風となり、懇親会の開催は見送ったものの、COVID-19以前の学術集会により近い形で執り行うことができました。

本学術集会はテーマを「連携で生きる腎臓リハビリテーション」とし、これは腎臓リハビリテーションが多職種チーム医療でより生きてくることから、チーム連携を話題の中心に考えたもので、多くの参加者と活発な議論ができることを期待に込めて定めました。

今回の学術集会には、1,485名の方々にご来場いただきました。また、プログラムにつきましては、大会長講演、理事長講演、特別講演、会長企画シンポジウム、学術委員会企画、シンポジウム、ジョイントシンポジウム、国際腎臓リハビリテーション学会、教育講演、よくわかるシリーズ、HOW TO SESSIONと多岐にわたる内容を企画し、一般演題については181演題のご登録をいただき、無事盛況のうちに終了いたしました。

2022年の診療報酬改定において、透析患者の透析リハビリテーションに新たな加算が認められるという大きな進歩の中で、これからの透析リハビリテーションのあり方についても議論ができたのは、大変有意義であったと考えております。

最後に、本学術集会開催の機会をいただきましたことに大変感謝申し上げます。

今後も腎臓リハビリテーションの一層の進歩と普及を願うとともに、本学会の益々の発展を祈念いたします。



第13回学術集会 Young Investigator Award 受賞者紹介



大内 慧 筑波大学人間総合科学学術院

「血中 CPP のできやすさ (T50) と座位行動の関連性」

この度は第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 最優秀賞(会長賞)に選出いただき、誠に光栄に存じます。研究を遂行するにあたり、多大なるご支援を頂きました先生方に厚く御礼申し上げます。本研究では、血管石灰化を引き起こすリン代謝物質 CPP (Calciprotein particles) の型転換のしやすさの指標である T50に着目し、日常生活での座位行動との関連性を検証しました。その結果、座位行動時間が短い中高齢男性では T50が長い(CPP が型転換しにくく、血管石灰化を引き起こしにくい)ことが示されました。このことは、CKD 患者の多くが併発する血管石灰化を予防する上で、座り過ぎの生活を是正するような介入が有効であることを示唆しています。本研究は横断研究であるため、今後は縦断研究、介入研究を実施することで臨床応用へとつなげていきたいと考えております。この度の受賞を励みに、腎臓リハビリテーション分野の貢献できるよう一層精進して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



田畑 吾樹 聖隷佐倉市民病院リハビリテーション室

「就労中のCKD患者における労働機能障害の実態と関連要因の検討」

この度は第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 優秀賞(副会長賞)に御選出いただきまして誠に光栄に存じます。研究のご指導をいただきました聖隷クリストファー大学の矢部広樹准教授をはじめ、浜松医科大学医学部附属病院の山口智也様、聖隷佐倉市民病院の皆様深く感謝申し上げます。我々は今回、就労中の保存期 CKD 患者の労働機能障害に着目し、CKD ステージの進行に伴って労働機能障害の割合が増加すること、労働機能障害には運動セルフ・エフィカシーが影響していることを明らかとしました。本研究の結果は、就労中のCKD患者における労働機能障害の改善の一助となり得ると考えております。この度の受賞を励みに今後の臨床や研究活動、腎臓リハビリテーション分野の普及と発展に貢献できるよう、今後一層精進して参りたい所存です。今後ともご指導のほど、何卒宜しくお願い致します。



臼井 直人 嬉泉病院リハビリテーション科/順天堂大学大学院医学研究科腎臓内科学

「血液透析患者における最大運動後の心拍数回復応答と protein-energy wasting および非心血管入院率の関連」

この度は、第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 優秀賞(副会長賞)という栄誉ある賞にご選出頂き、光栄に存じます。ご指導頂きました嬉泉病院病院長 上畑昭美先生、順天堂大学 鈴木祐介先生、中田純一郎先生、ご協力頂いた嬉泉病院リハビリテーション科の皆様には心より御礼申し上げます。昨年私たちの研究グループは、Kidney International 誌に運動後の迷走神経再活性の障害が透析関連低血圧や非心血管予後に関連することを報告しました。本研究はこれらに関連付ける機序として、迷走神経のもつ抗炎症作用の低下が、全身の炎症や protein-energy wasting (PEW) を悪化させ、入院率を増加させる可能性があり、この集団の炎症や PEW に関連した不良な転帰を引き起こす新規のメカニズムの一つであることを示唆しました。本受賞を励みとして、微力ながらもこの分野の発展に寄与できるよう一層研究に邁進して参ります。



1. 病院紹介

1975年の開設以来、腎臓・透析分野の専門的医療を追求しています。入院病床は127床で2病棟が急性期、1病棟が地域包括ケア病棟です。腎臓専門医による糸球体腎炎、多発性嚢胞腎などの治療、糖尿病専門医による糖尿病性腎臓病治療に加え、多職種チームで保存期CKD治療に取り組んでいます。

腎代替療法では、PDファーストを理念に腹膜透析に注力しており、アシストPDとして病院から訪問診療・看護に行ったりもします。血液透析ベッドは200床あり通常の血液透析に加え、オーバーナイト透析や在宅血液透析もさかんです。また大阪大学泌尿器科の協力で腎移植外来も設置されています。

2. 若手医師のバスキュラーアクセス治療の修練、透析患者のリハビリ入院など

透析バスキュラーアクセス治療件数が多く、出身大学を問わず若手医師がPTAや手術の修練もかねて在籍していますので、ご興味のある先生は是非いらしてください。さらに重症下肢虚血、透析アミロイドーシスや骨粗鬆症、透析腎がん、眼科治療などの合併症治療を行っています。

また、他院で急性期の治療は済んだけれど体力の回復がまだ不十分な患者さんには地域包括ケア病棟でのリハビリ入院も積極的に受け入れて、自宅退院・元の透析クリニック通院復帰への橋渡し役を担っています。



保存期CKD患者の運動療法

3. 保存期CKD患者の腎臓リハビリテーション

CKDステージG3b患者や糖尿病透析予防指導患者を中心に運動療法に取り組んでいます。

診察ごとに健康運動指導士による運動チェック・指導を繰り返して行います。まだ少数例での検討ですがeGFR低下を抑制する傾向がみられています。運動以外にも食事摂取頻度調査票を用いた栄養指導、腎看護外来での独自のCKD手帳を用いた生活指導や心理的サポート、お薬手帳へのCKDシール貼付など多職種での腎臓リハビリテーションを行っています。



CKD手帳

4. 透析患者の運動療法～いつまでも元気にプロジェクト

透析患者では健康寿命延伸を目指して、①運動②栄養③抗疲労に取り組む“いつまでも元気にプロジェクト”を行っています。患者さんに応じて、透析前の集団での運動と、当院で作成した運動療法のDVDをみながらの透析中の運動を実施しています。しっかり動きしっかり食べた後は、しっかり休息するために抗疲労対策が必要との考えの元、一部のフロアに電解水透析を取り入れたり、質の良い睡眠のために適応のある患者さんにはCPAP治療も積極的に行っています。まさに病院全体で保存期CKD、透析患者両方の腎臓リハビリテーションに取り組んでいます。



透析患者の運動療法

社会医療法人愛仁会 井上病院

〒564-0053

大阪府吹田市江の木町16-17

TEL: 06-6385-8651 FAX: 06-6386-1131

URL: <https://inoue.aijinkai.or.jp>

第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会のご案内

第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会 長 成田 一衛 新潟大学大学院医歯薬総合研究科 腎・膠原病内科学
事務局長 細島 康宏 新潟大学大学院医歯薬総合研究科 病態栄養学

第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を、2024年3月16日(土)と17日(日)に、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催致します。この学術集会は、腎臓リハビリテーションに関わる医師、理学療法士、看護師、保健師、管理栄養士、行政に至るまで多様な職種の会員が一堂に会し、研究の成果や課題を発表し検討できる大変貴重な機会となっております。

第14回本学術集会のテーマは、“患者中心の腎臓リハビリテーション～治し、癒し、祈る～”とさせていただきます。近年の医療現場において、“患者中心”という言葉、考えが浸透しています。特に患者の高齢化が進む腎臓病診療、腎不全医療においては、人生会議(ACP)、共同意思決定(SDM)、保存的腎臓病治療(CKM)などの必要性和有用性が認識され、ガイドラインも公表されています。しかし一方では、それらを適確に日常臨床において実践することは容易ではなく、さらなる医療体制や医療技術の確立、社会環境などの整備が今後も必要であることは言うまでもありません。私達医療者は、疾患に対して医学的に最善の治療を行うと同時に、患者個々の人生観や意思を尊重して寄り添うことを求められます。そのためには十分な相互理解、患者を中心とする多職種からなる医療チームでの対話が重要です。“治し、癒し、祈る”はこの想いを込めて添えました。

これまでの本学会の活動は、腎臓病患者の医療の向上に大きく貢献してきました。過去10年間あまりで、糖尿病性腎症による保存期慢性腎不全への高度腎機能障害指導管理加算が診療報酬に加わり、腎臓リハビリテーションガイドラインの発刊、腎臓リハビリテーション指導士制度の確立などが実現しました。この学術集会では今までの成果に基づいて、腎臓病患者のさらなるQOL向上、腎予後・生命予後の改善のための取り組みや研究成果を共有できればと考えております。最近のトピックとしては、透析時運動指導等加算が2022年度新規設定されたことが挙げられます。この国内の実施状況の調査や課題などについても議論できると考えております。

一般演題、シンポジウム、教育講演、特別講演などに加え、特別企画として新潟を代表する芸術家

文化庁長官を務められた宮田亮平氏をお招きしております。芸術・文化と“癒やし”・“祈り”について皆様とともに考える機会にしたいと思います。

会場の朱鷺メッセは雄大な信濃川の河口付近に浮かぶ中島、佐渡汽船ターミナルに隣接しており、新潟空港からのアクセスも良好です。JR新潟駅の改装工事は来春には完成し新店舗が揃います。雪解けの爽やかな春の空気と味覚とともに、学術集会を楽しんで頂けますよう、準備して参りたいと考えております。多数の皆様の御参加を楽しみにしております。

第14回
日本腎臓
リハビリテーション学会
学術集会

The 14th Annual Meeting of
the Japanese Society of Renal Rehabilitation

会 期
2024年3月16日(土)・17日(日)

会 場
朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

会 長
成田 一衛 (新潟大学大学院医歯薬総合研究科 腎・膠原病内科学 教授)

事務局長
細島 康宏 (新潟大学大学院医歯薬総合研究科 病態栄養学 特任准教授)

患者中心の腎臓リハビリテーション
～治し、癒し、祈る～

運営事務局
株式会社メディカル東友 コンベンション事業部
〒243-0012 神奈川県厚木市幸町9-10 第2ファームビル
TEL:046-220-1705 FAX:046-220-1706 E-mail:jsrr14@toyoyu.jp

https://www.m-toyou.com/jsrr14/

会 期：2024年3月16日(土)～17日(日)
会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター(新潟県新潟市)
会 長：成田 一衛(新潟大学大学院医歯薬総合研究科 腎・膠原病内科学 教授)
U R L：https://www.m-toyou.com/jsrr14/
事務局：新潟大学大学院医歯薬総合研究科 病態栄養学
運営事務局：株式会社メディカル東友 コンベンション事業部
〒243-0012 神奈川県厚木市幸町9-10
第2ファームビル

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

●会員現況 (2023年 4月30日現在)

正会員数 3,009名 (医師985名 医師以外2,024名)

施設会員 140施設 賛助会員 1社

●役員

理事長	山縣邦弘							
副理事長	伊藤 修	柴垣有吾	松永篤彦					
理事	上月正博	倉賀野隆裕	小林修三	齊藤正和	武居光雄	中元秀友	成田一衛	平木幸治
	深水 圭	星野純一	牧田 茂	水内恵子	宮崎真理子	和田 淳		
監事	伊藤貞嘉 柏原直樹							
幹事	石川祐一	伊藤大亮	小坂志保	斎藤知栄	櫻田 勉	祖父江理	飛田伊都子	原田 卓
	藤井直彦	細島康宏	松沢良太	三浦美佐				
名誉会員	秋澤忠男	和泉 徹	伊東春樹	草野英二	斉藤喬雄	佐藤徳太郎	平松義博	槇野博史
	保嶋 実							
代議員	青池郁夫	明石嘉浩	浅野貞美	浅見豊子	安達 仁	安達裕一	阿部高明	阿部貴弥
	安保雅博	荒川鉄雄	有馬秀二	安藤康宏	安藤亮一	井垣 誠	池田大輔	石井孝典
	磯 良崇	伊藤孝史	伊東秀崇	伊東 稔	猪飼哲夫	今澤俊之	岩根美紀	植田敦志
	白井直人	宇田 晋	内田明子	内山清貴	海老原至	大石義英	大川卓也	太田喜久夫
	大竹剛靖	大平雅美	大宮一人	大山恵子	大屋祐輔	緒方浩顕	岡本威志	岡本牧子
	小川真澄	奥田康輔	尾崎美紀子	小田弘明	音部雄平	小幡裕明	甲斐平康	笠原正登
	加藤明彦	河辺信秀	河原崎宏雄	神田英一郎	北島幸枝	北村健一郎	木田圭亮	木村朋由
	木村 剛	清元秀泰	忽那俊樹	熊坂隆一郎	熊坂礼音	小岩文彦	河野健一	後藤真希
	古波蔵健太郎	木庭新治	小林 愛	小林正貴	小山照幸	今田恒夫	齋藤久夫	佐浦隆一
	佐伯博子	佐々木環	佐々木裕子	笹富佳江	佐藤 信	塩田悦仁	重松 隆	柴田 了
	島田美智子	清水弘毅	庄司繁市	杉山 斉	鈴木祐介	瀬戸由美	相馬 淳	高田亜紀
	高橋哲也	高橋直子	田倉智之	竹本文美	田中元子	田原 恒	田淵啓二	田村岳志
	田村由馬	土谷 健	鶴屋和彦	道免和久	富田泰史	友 雅司	長澤康行	長洲 一
	長田太助	中西 健	中村典雄	中村秀敏	中山昌明	西岡心大	西村彰紀	西山 成
	野口雅弘	野村卓生	蓮池由起子	畠山真吾	花房規男	濱田昌実	濱野慶朋	林 謙治
	檜垣靖樹	日高寿美	福間長知	藤谷順子	藤田 雄	古井秀典	細井雅之	本田浩一
	前田清司	前田知子	牧野健一郎	正門由久	正木崇生	升谷耕介	三浦伸一郎	三浦平寛
	溝渕正英	満渕浩司	三間 涉	村上礼一	村田敏晃	室谷嘉一	森 建文	森みさ子
	森下義幸	森永裕士	森本哲司	森山善文	安 隆則	若林秀隆	脇野 修	渡辺久美
	和田隆志							

広報委員会より



第13回学術集会は2023年3月18・19日に大宮ソニックシティで開催され1,485名と多くの参加者に恵まれました。中元秀友会長と事務局が準備された充実した企画のおかげでコロナ禍以前と変わらない熱気のある盛況な学会となりました。2023年4月現在、本会の正会員数は3,009名、施設会員数は140施設まで増加しています。本誌では、理

事長に再任された山縣邦弘先生からのご挨拶、学術委員会の活動報告、古くから大阪で腎・透析医療に携わっている社会医療法人愛仁会井上病院における腎臓リハビリへの取り組みをご紹介します。是非皆様の取り組みのご参考として頂ければ幸いです。最後にご多忙の中、本誌へのご寄稿・ご支援頂きました皆様にご場をお借りし改めて御礼申し上げます。

(倉賀野隆裕、伊藤 修、原田 卓、田村由馬)

運動療法が体力維持の一環として定着!!

仰臥位用 負荷量可変式エルゴメータ

てらすエルゴ4

オプション品 …使用時の「揺れ」対策に…

低負荷タイプ



TE4-20

高負荷タイプ



TE4-70

移動式固定台
TE-CARRY

揺れ軽減・移動が容易・設置が容易・分離タイプ



汎用式固定台
TE-ANY

揺れ軽減・設置が容易・省スペース対応



傾斜式固定台
TE-SLOP

揺れ軽減・設置が容易・傾斜角度15°・省スペース対応



てらすエルゴ専用アプリ 『TE de 運動管理』

患者様を経過観察しながら
運動データを簡単に確認できます。



専用アプリをタブレットにダウンロードしていただき
Bluetooth接続で利用いただけます。

オプション品についての詳細はお問合わせください。

お問い合わせ先

Showa Denki Group
昭和電機株式会社

ヘルスケアチーム TEL 072-870-5708

<http://www.showadenki.co.jp/terasu/>

デモ機貸出受付中!

ホームページよりお申込できます。

<https://www.showadenki.co.jp/terasusu/product/erugo/order/>

詳しくは
こちら

